

第3次

遊佐町子ども読書活動推進計画

(令和8年度～令和12年度)



令和8年3月

遊佐町教育委員会

目次

第1章 計画策定にあたって	1
1. 計画策定の趣旨	1
2. 計画の位置づけ	1
3. 子どもの読書に関する現状	1
4. 遊佐町の現状	2
5. 第2次計画の実績	6
6. 遊佐町でめざす姿	9
第2章 計画の目標と基本的な考え方	10
1. 計画の目標	10
2. 計画の対象	10
3. 計画の基本方針	10
4. 計画の実施期間	11
5. 計画の評価方法	11
第3章 子どもの読書活動推進のための具体的方策	12
1. 家庭・地域・学校等を通じた社会全体での子ども読書活動の推進	12
2. 子どもが読書に親しむ機会の提供と施設、設備の整備・充実	19
3. 子どもの読書活動に関する理解の普及	21
❖ 参考資料	22

第1章 計画策定にあたって

1. 計画策定の趣旨

子どもの読書活動は、言葉を学び、表現力を高めるとともに、豊かな感性と思考力・想像力を培い、思いやりの心や人間性を養うことに繋がるものであり、人生をより深く生きる力を身につけていくうえで欠くことのできないものです。子どもたちがその成長過程において、多様な本と出会い、本を読む楽しさを味わい、それによる充実感、満足感を得る体験は、生涯にわたる学習意欲やウェルビーイングに繋がることが期待されます。そのために、読書ができる環境づくりを家庭、保育園・認定こども園、小・中学校、高等学校、図書館、地域などが連携・協力し町が一体となって取り組んでいく必要があります。

このような観点から、遊佐町のすべての子どもたちが、あらゆる機会とあらゆる場所において、主体的に読書活動ができる環境づくりを推進するため、「第3次遊佐町子ども読書活動推進計画」を策定します。

2. 計画の位置づけ

この計画は、国の「子どもの読書活動の推進に関する法律（平成13年12月）」「第五次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（令和5年3月）」「第4次山形県子ども読書活動推進計画（令和6年3月）」を基本とし、「第2次遊佐町教育振興基本計画後期計画（令和4年11月）」の基本施策「生涯学習の基本的環境づくり」の施策の1つに位置づけられています。本町の現状等を踏まえ、これまでの遊佐町子ども読書活動推進計画を継承し策定するものとします。

3. 子どもの読書に関する現状

全国学校図書館協議会が実施した「第69回学校読書調査」によると、令和6年5月における1ヶ月の平均読書冊数は、小学生（4～6年生）は13.8冊（令和元年度比2.5冊増）、中学生は4.1冊（令和元年度比0.6冊減）、高校生は1.7冊（令和元年度比0.3冊増）となっていて、令和元年度に比べ、小学生は増加、中学生は減少、高校生は微増となっています。また、1ヶ月の間に読んだ本が0冊である「不読者」の割合（1ヶ月間に全く本を読まない児童生徒の割合、以下「不読率」という）は、小学生（4～6年生）は8.5%（令和元年度比1.7%増）、中学生は23.4%（令和元年度比10.9%増）、高校生は48.3%（令和元年度比7.0%減）となっていて、小中学生の不読率が増加し、高校生の不読率は減少しました。

4. 遊佐町の現状

令和6年12月に行った「遊佐町子ども読書活動推進計画策定に係るアンケート調査」では、児童生徒（小学生から高校生まで）の81.0%（令和元年比3.6%増）が本を読むことが好きという結果となっています。本を読むのが好きとなった理由としては「学校の図書室や教室に読みたい本があった（52.3%）」「本が家にあったから（34.5%）」「学校で朝の読書をするようになったから（29.6%）」の割合が各世代共通で高い傾向であり、身近に本を読むことができる環境があると、本が好きになる傾向があります。また、小学校下学年では「本を読んでもらって楽しかったから（43.1%）」が最も高く、幼児期からの読み聞かせも重要です。（図1）

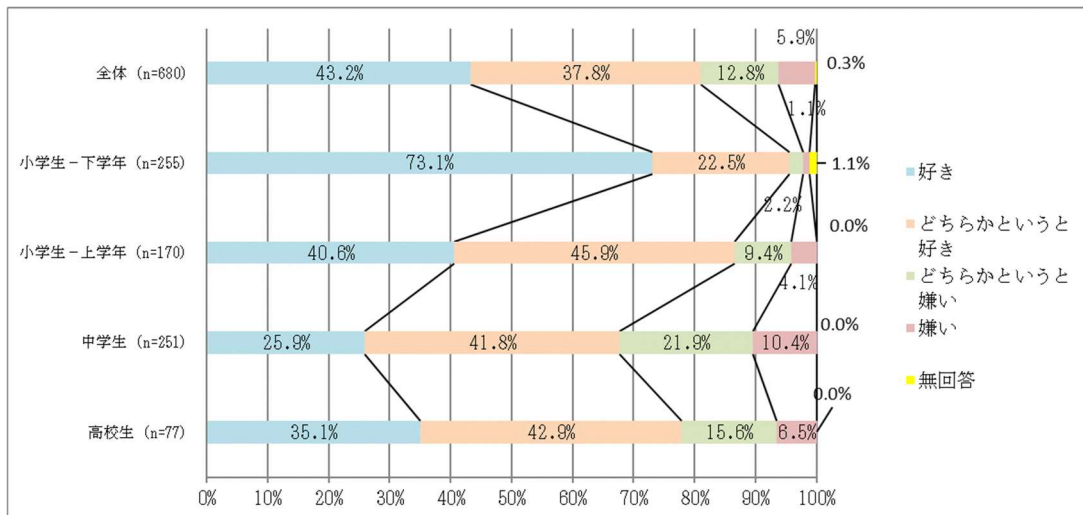


図1 読書嗜好

家庭での読書習慣では、「毎日読む」「時々読む」の読書習慣のある児童生徒は50.6%（令和元年比6.4%減）となっています。年代別では小学校上学年が47.6%（令和元年比20.6%減）、中学生が41.9%（令和元年比20.6%減）であり、読書習慣が前回調査より20%以上減少しています。読まない理由としては、小学生では、「テレビを見たりゲームをしたりするので、本を読む時間がないから」「勉強や塾、習い事などで忙しくて、本を読む時間がないから」「読みたい本が近くにないから」が高い傾向であり、中高生では「PCや携帯電話で遊んだりするので、本を読む時間がないから」「部活動や委員会活動などで忙しくて、本を読む時間がないから」も高い傾向です。また、読み聞かせ経験別でよく読んでもらった子どもほど、本を読む習慣があり本に親しんでいることがわかります。（図2）

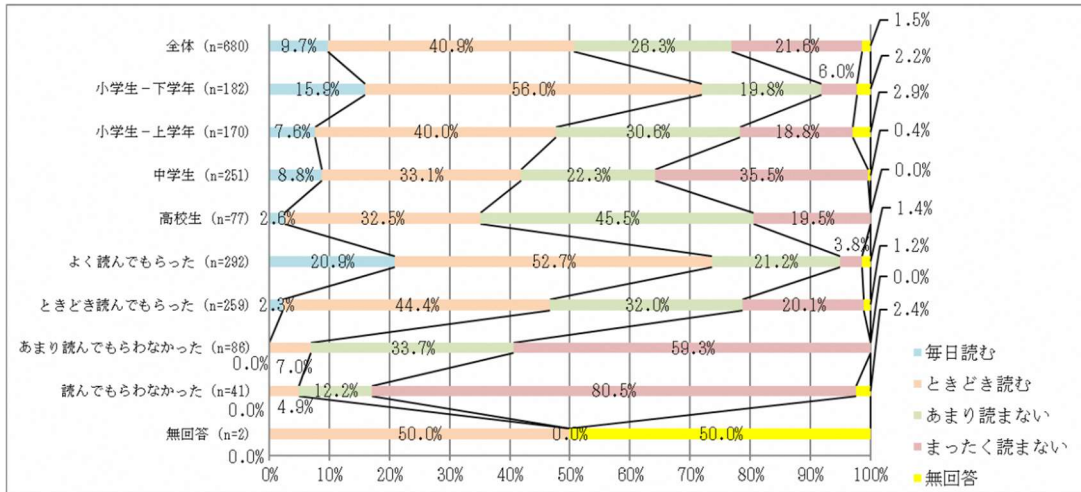


図2 家庭での読書習慣 (年代別、読み聞かせ経験別)

1ヶ月に読んだ本冊数は、小学校下学年は25.65冊(令和元年比9.25%増)それ以外の年代は前回調査とほぼ同じでした。不読率では、小学生上学年は前回調査時と同じ数値でしたが、それ以外の年代は前回調査時より下回っています。また、小学校、中学校、高校と年齢が上がるにつれて読書から遠ざかる傾向にあります。(図3、図4)

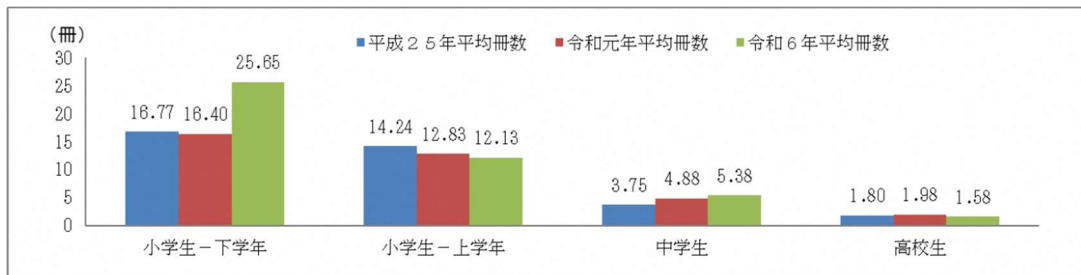


図3 1ヶ月間の読書量 (読んだ本の冊数) および不読率

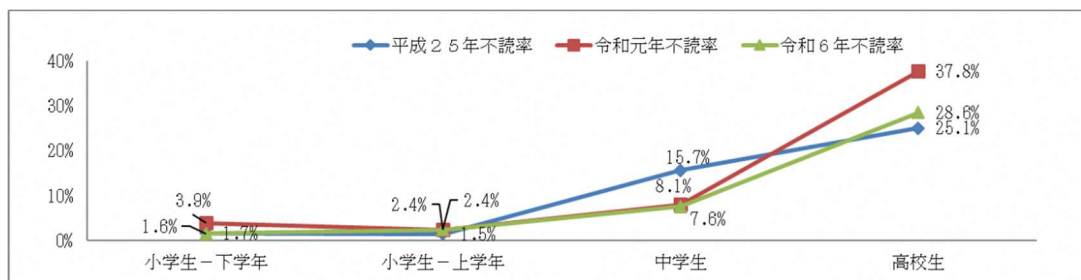


図4 1ヶ月間の読書量 (不読率)

学校図書館の利用状況では、「毎日行く」「1週間に1回以上行く」児童生徒は、小学生71.8%(令和元年比11.6%減)、中学生67.0%(令和元年比8.8%減)、高校生19.5%(令和元年比4.7%増)であり、特に小学校上学年が28.9%減となっています。学校図書館に行かない理由としては「読みたい本がないから」「本を借りるのが面倒だから」の割合が高い傾向です。(図5、図6)

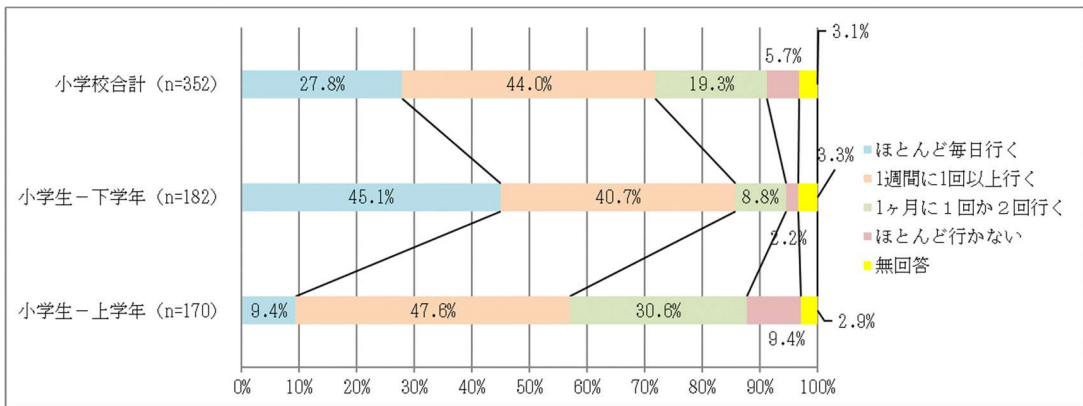


図5 学校図書館の利用状況（小学校計）

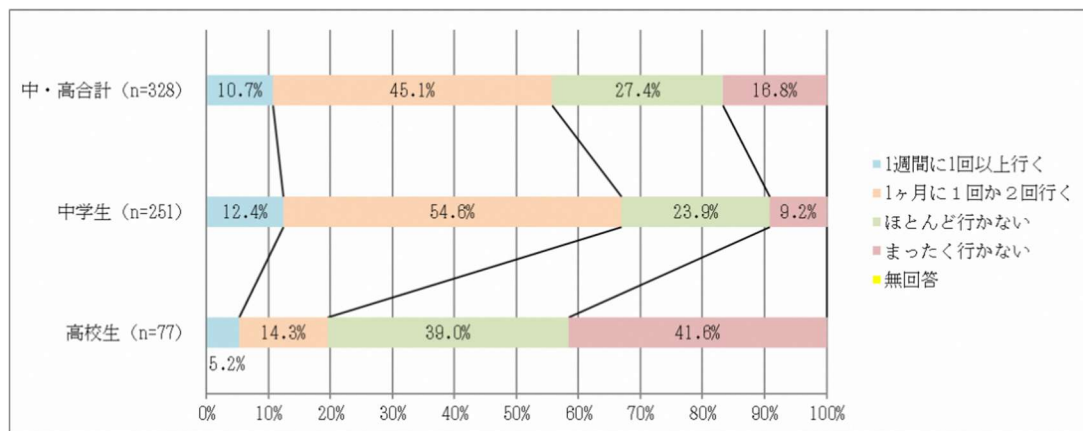


図6 学校図書館の利用状況（中学校・高校合計）

町立図書館の利用状況をみると、「1週間に1回以上行く」「1ヶ月に1～2回行く」割合は、小学生下学年が45.1%、小学生上学年が24.7%、中学生が5.6%、高校生が1.3%となっており、学年が上がるにつれ利用割合が低くなっています。行かない理由としては「行きたいが行く時間がないから」「学校の図書館などで本を借りるので行かなくていいから」「行きたいと思わないから」が多い傾向です。（図7）

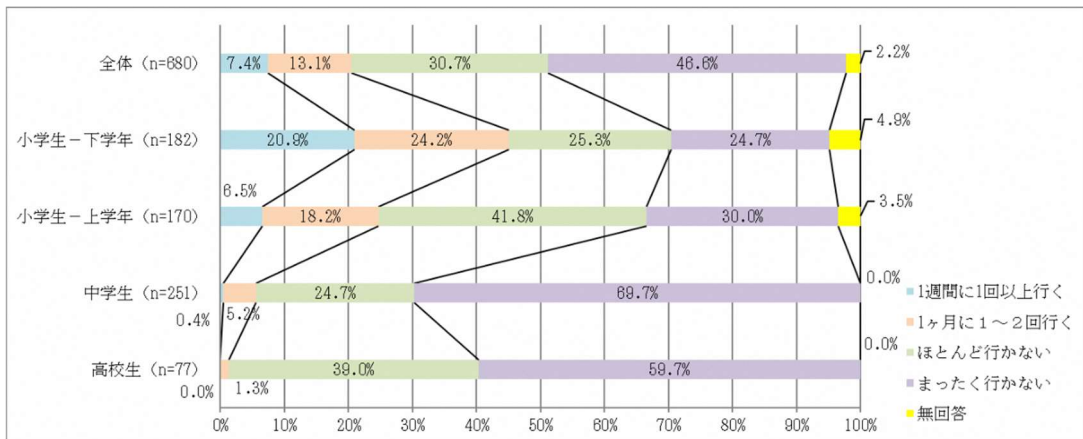


図7 町立図書館の利用状況

未就学児の保護者の68%（令和元年比10.0%減）が読書好きであり、週に1回以上読み聞かせをする割合は74.7%（令和元年比4.6%減）であり、家庭内での読み聞かせの実施は5年前と比べると減少傾向にあります。しかし、前回調査時は読書嫌いの保護者は「週3回以上」の読み聞かせをする方はいませんが、今回調査では週3回以上読み聞かせをする方が40.0%になりました。これまでの各種取り組みにおいて、幼児期の読み聞かせが子どもの成長に大きく関係することを周知した成果と思われます。（図8、図9）

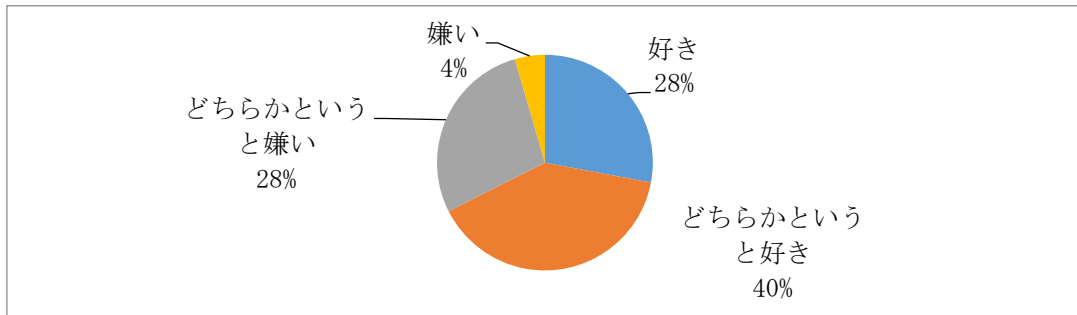


図8 未就児の読書嗜好（保護者調査）

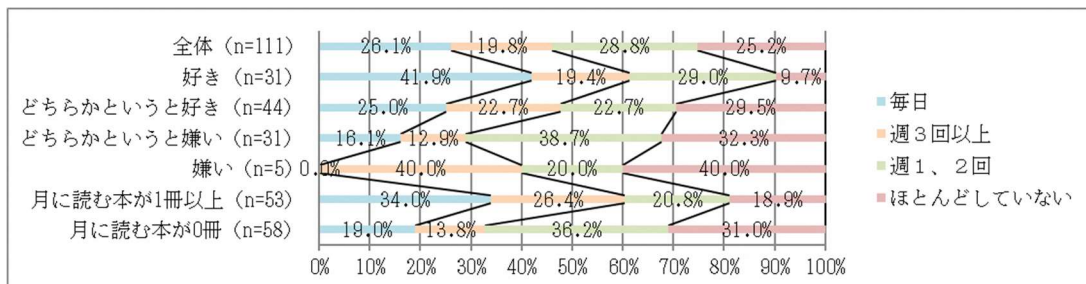


図9 子供（未就学児）に読み聞かせをしている頻度

本町では、これまでも家庭、保育園・認定こども園、学校、地域等各関係機関と連携して子どもの読書活動に取り組んできました。それらの取り組みに加え、地域ボランティアや図書館による活動を継続的に実施してきました。また、令和5年度には5つの小学校が1校に統合されました。統合前に各小学校で行われていた地域住民のボランティアによる読み聞かせは、ボランティアを1つの組織にまとめることで予定よりも早く統合後の小学校で読み聞かせを実施することができました。

しかし、テレビ、ゲーム、インターネット、SNS等の情報メディアの発達・普及による社会のデジタル化が進み、容易に多様な情報や知識が得られる環境にあり、そうした中でそれらデジタル機器を利用する子どもたちは読書から離れていくことが推察されます。

現在、子どもたちが生きていく上で大切な「考える力」「想像する力」「言葉の力」を家庭、保育園・認定こども園、学校、地域等で育てていくため、それぞれの年齢に合った読書活動の取り組みを行っています。

5. 第2次計画の実績

本町の令和6年度の不読率は、目標数値を達成することができました。また、全国平均と比較しても低い数値となっています。これまで実施してきた各種取り組みの成果と思われます。(表1)

各関係機関における数値目標実績一覧では、週1~2回以上の読み聞かせをする割合は74.7%となり、目標を下回っています。また、令和元年度と比較して、4.6%減となっています。保育園・認定こども園、小中高校独自の子ども読書活動推進計画については、令和元年度以降、新規に策定した機関はありませんでした。令和元年度から機関数が増えているのは、令和5年度に小学校統合によるものです。また、統合により計画がなくなりましたが、学校運営概要に読書活動関係が記載されています。

また、図書館における利用登録者の割合と、子ども一人当たりの貸出冊数については、それぞれ74.0%(+2.4%)、3.9冊(-4.8冊)となっています。(表2)

第2次計画において、新規に取り組むことを目標にしていた町立図書館への書籍消毒器の設置、照明のLED化更新工事、開館30周年を記念しての図書館まつりの開催、本の貸出期間拡大(2週間から3週間)については実施することができました。また、計画にはありませんでしたが空調設備の更新工事、休館日等の変更を実施し、利用者の利便性の向上に努めました。しかしながら、一部の取り組み事業については、事業内容の詳細な協議が必要なことや、小学校統合による学校運営やPTA活動の見直しにより目標を達成することができませんでした。これらについては、図書館協議会委員で先進地の視察等を行い、目標達成に向けて協議等を行ってきました。(表3)



「30周年記念図書館まつり」(R3/10/10)

表1 不読率の比較と実績

	小学生		中学生	高校生	備考
	下学年	上学年			
R元年度実績	3.9%	2.4%	8.1%	36.8%	※1
数値目標 R6年度	3.9%	2.4%	8.1%	36.8%	
実績 R6年度	1.6%	2.4%	7.6%	28.6%	※2
全国平均 R6年5月1ヶ月		8.5%	23.4%	48.3%	※3

※1 令和元年度「遊佐町子ども読書活動推進計画策定に係るアンケート調査」

※2 令和6年度「遊佐町子ども読書活動推進計画策定に係るアンケート調査」

※3 全国学校図書館協議会による調査「第69回学校読書調査」

表2 各関係機関における数値目標実績一覧

	R元年度	数値目標 R6年度	実績 R6年度
家庭で週1~2回以上の読み聞かせをする割合(0~6歳) ※1	79.3%	90%	74.7%
保育園・認定こども園、各学校独自の「子ども読書活動推進計画」の立案	54.0% (6/11機関)	100%	14.3% (1/7機関)
町立図書館利用登録者の人口に占める割合(0~18歳) ※2	71.6%	80%	74.0%
町立図書館における子ども一人当たりの年間貸出冊数(0~18歳) ※2	8.7冊	15冊	3.9冊

※1 令和元年度「遊佐町子ども読書活動推進計画策定に係るアンケート調査」に基づく数値。

※2 町立図書館利用統計と住民基本台帳に基づく0歳~18歳までの人口により算出。

表3 取組み事案の実施状況

取組み事業	内 容	R6 年度 目標	R6 年度 実績	関係機関
移動図書館	○各地区のまちづくりセンターで 移動図書館を開設 ○各小・中学校での移動図書館と 読み聞かせを同時に開催	実施	未実施	まちづくり センター 小・中学校 図書館
ファミリー リーディング	夏休みなどの長期休業時、家族で 本を読むことを推奨し、親子のふ れあいと読書活動の推進を図る。	継続	中止	小学校
リーディング バディー	高学年の児童が自分で本を選び、 低学年の児童に読み聞かせを行 う。	継続	中止	小学校
PTA 連携 親子読書会	「ごっこの会」など PTA 組織と 連携し、お月見読書会など親子で 読書を行う行事を企画する。	継続	中止	小学校
読書通帳の導入		完了	未実施	図書館
移動図書館車 の配置		完了	未実施	図書館
蔵書データ管理 システムの統合		完了	完了	小学校



R7 年度（7 月）導入の移動図書館車

6. 遊佐町でめざす姿

アンケートの分析から、幼児期からの読み聞かせの経験が普段の読書習慣に影響していることが読み取れ、幼児期からの読書習慣がその後の読書志向を大きく左右していると考えます。更には多くの時間を過ごす学校における読書活動にも大きな意義があり、この視点から第3次計画においても、本を読まない児童生徒に着目し、不読率の減少に向け、低年齢層を中心に読書活動を推進していきます。

また、学校および町立図書館並びに地域で本に親しめる環境を整え読書が好きな子どもを育むための取り組みを行うとともに、デジタル社会に対応した読書活動や、多様な読書活動ができる環境整備についても検討していきます。



R5 年度統合遊佐小学校で「でこの会」による読み聞かせ（朝読書）スタート

第2章 計画の目標と基本的な考え方

1. 計画の目標

子どもたち一人一人の読書活動が充実し、読書が子どもの成長を促し心豊かに学び続けることができるよう、良好な子どもの読書環境づくりを地域社会全体で積極的に進めていきます。

2. 計画の対象

この計画の対象は、0歳からおおむね18歳とします。しかし、読書環境の整備には大人の関わりが重要であることより、子どもの読書活動の推進に関わる全ての町民も対象とします。

3. 計画の基本方針

(1) 家庭、地域、学校等を通じた社会全体での子ども読書活動の推進

読書が好きな子どもを育てるためには、子どもの発達段階や生活環境・家庭環境をはじめとした状況等に配慮し、家庭、保育園・認定こども園、学校、地域等がそれぞれの担うべき役割を果たすとともに、互いに十分な連携を図りながら、社会全体で取り組んでいくことが大切です。

このようなことから、家庭や学校、図書館などの関係機関、ボランティア団体等が連携し相互に協力を図りながら、子ども一人一人が、主体的に読書が行えるよう、子どもの視点に立った読書活動を推進します。

(2) 子どもが読書に親しむ機会の提供と施設・設備の整備・充実

子どもが読書に親しむためには、子どもが本に親しむきっかけを提供するとともに、子どもが本を読みたいと思ったときに、いつでも本を手に取り読むことができる環境を整えることが重要です。

このようなことから、子どもの発達段階に応じて、子どもが読書に親しむ機会の提供に努め、施設・設備の整備・充実を図ります。

(3) 子どもの読書活動に関する意義の理解促進

自ら本を手取る子どもを育てるためには、子どもの読書活動の意義や重要性について町民の理解を深め、関心を高めていく必要があります。特に、保護者等子どもの読書活動に携わる身近な大人自身が読書に親しみ、その楽しさを子どもに伝え、読書意欲を高めていくことが重要です。

子どもの頃に読書の楽しさを味わうことで、将来その体験を次世代の子どもと共有していきたいという動機になり、世代を超えた読書活動の推進の循環が形成されることも期待されます。

このようなことから、子どもの主体的な読書活動を推進する社会的な機運を醸成します。また、読書活動の意義や重要性について広く普及啓発を図るよう努めます。

4. 計画の実施期間

この計画の実施期間は、令和8年度からおおむね5年間とします。

5. 計画の評価方法

本計画の達成状況を確認するにあたり、目標・基本方針に沿った具体的な方策を検討し、その実施状況を遊佐町図書館協議会において評価します。

なお、評価は定期的に行い、必要に応じて事業の見直しを行います。

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的方策

1. 家庭・学校・地域等を通じた社会全体での子ども読書活動の推進

【現状と課題】

近年のテレビ、ゲーム、インターネット、携帯電話等のさまざまな情報メディアの発達・普及は子どもたちの生活環境を大きく変化させ、また、部活動・クラブ活動、習い事等により、子どもたちが本に親しむ機会が減少する一因となっています。

子どもの発達段階における状況をみると、保育園・認定こども園等では毎日の読み聞かせが行われており、子どもたちは絵本が大好きになってきています。小・中・高等学校においても朝読書、読み聞かせ等が各学校で定期的に行われていますが、学年が進むにつれて読書量が減少する傾向にあります。

また、図書館における各種読書活動事業の実施、各まちづくりセンターへの団体貸出*などが行われており、ボランティアグループにより図書館や小学校での読み聞かせ等が行われています。家庭、保育園・認定こども園、学校、図書館などの関係機関、ボランティア団体等が連携し、相互に協力しながら、子どもの読書活動の推進に努めることが必要です。

*団体貸出…まちづくりセンター等の施設や、保育園・認定こども園、学校、ボランティア団体等を対象に拡大した貸し出しを行うこと。

(1) 家庭における子どもの読書活動の推進

家庭は教育の原点であり、全ての教育の出発点です。家庭における読書は、子どもの心の健全な成長と共に、親子のふれあいや心のつながりを育むうえでも大切です。また、生涯にわたって読書に親しみ、読書を楽しむ習慣を形成するためには、乳幼児期からの発達段階に応じた読書活動が行われることが重要であり、親子で参加できる読書活動を実施していきます。

【具体的な取り組み】

取り組み事業	内 容	現状 R6 年度	目標	関係機関
ブックスタート	3 カ月齢児とその保護者への絵本の読み聞かせと絵本プレゼント	実施	継続	図書館 健康福祉課 書店
わくわくらんど	0～3 歳児とその保護者への絵本の読み聞かせ等	実施	継続	ボランティア 図書館 子どもセンター
幼児共育 ふれあい広場	親子による読書ふれあい体験活動	実施	継続	保育園・ 認定こども園 図書館 教育委員会
親子で選ぶ一冊	小学1年生全員に、国語教科に関連し選定した10冊の絵本の中から希望の1冊をプレゼント	実施	継続	小学校 図書館 書店
夜の図書館 ブックナイト ライブラリー	夜間の貸切開館に家族と一緒に来館、読み聞かせや映写会などを体験、貸出しも行う。	実施	継続	小学校 PTA ボランティア 図書館
絵本フェア	季節のイベントに関する絵本の展示	実施	継続	小学校 図書館 書店

(2) 地域における子どもの読書活動の推進

図書館における子どもの読書活動事業を充実させ、図書館に来館する小中高生の拡大を目指します。遊佐町の読書活動の拠点である図書館は、町内の各地域から離れており、子どもが一人で来館するのは難しい状況にあります。そこで、各まちづくりセンターへの団体貸出の継続と新たに移動図書館事業を実施し、子どもが読書に親しむ機会を提供します。

また、家庭と同じく、地域で子どもに関わる大人が、読書活動に理解と関心を持つように、地域社会全体で読書活動を推進する機運を高める必要があります。特に、大人自身が読書に親しみ、その楽しさを子どもに伝えていきます。

【具体的な取り組み】

取り組み事業	内 容	現状 R6 年度	目 標	関係機関
移動図書館	各地区のまちづくりセンター等で移動図書館を開設	未実施	実施	まちづくり センター 図書館
団体貸出	各地区まちづくりセンターに団体貸出を行い、図書館コーナーを新設	実施	継続	まちづくり センター 図書館
夜の図書館 ブックナイトライ ブラリー（再掲）	夜間の貸切開館に家族と一緒に来館、読み聞かせや映写会などを体験、貸出しも行う。	実施	継続	小学校 PTA ボランティア 図書館
としょかん 古本市	図書館の除籍資料、利用者から募った読み終わった本を有効活用する。	実施	継続	図書館
朗読を楽しむ会	朗読を通して名作に親しみ、また視覚障がい等で読むことが難しい方が文学に触れる機会をつくる。	実施	継続	朗読サークル 図書館
絵本ライブ	絵本作家本人による読み聞かせやワークショップを通して、絵本・読書への関心を深める。	実施	継続	保育園・ 認定こども園 小学校 図書館
おはなしの部屋	「とんぴんかだりの会」による昔話の素語り。先人の知恵や方言の豊かさを伝える。	実施	継続	ボランティア 小・中学校 図書館 教育委員会
遊佐町 子ども川柳 チャレンジ大会	川柳を通して言葉にふれあい、活字に親しみを持ち読書意欲を育む。	実施	継続	小学校 ボランティア 図書館
図書館クイズ	夏休みを過ごす児童へ来館のきっかけづくり。クイズを通して図書館での調べものの仕方を学ぶ。	実施	継続	小学校 図書館
インターン シップ受入れ	高校生の地元定着と職業観を育む。遊佐高校「デュアル実践」実習生受入等	実施	継続	高等学校 図書館 書店

取り組み事業	内 容	現状 R6年度	目標	関係機関
施設見学受入	施設案内、図書館ガイダンス等を行い、図書館利用への理解を深める。	実施	継続	保育園・ 認定こども園 小学校 図書館 学童保育
生涯学習まち づくり出前講座	○図書館出張まるまる講座 ○のぞいてみよう「とんぴんかだり」の部屋	実施	継続	図書館 社会教育係
学び合い スペース	学び合いのための会話が可能な学習スペースを提供し、利用者の多様な学びニーズに対応する。	実施	継続	小・中学校 高等学校 図書館



「とんぴんかだりの会」による昔語り（遊佐中朝読書）

(3) ボランティア活動による子どもの読書活動の推進

小学校では読み聞かせボランティアによる読み聞かせが定期的に行われています。アンケート結果にもあるように、読み聞かせをしてもらった経験があることが、児童生徒が本を好きになる重要な機会となっています。そのため、今後も読み聞かせサークルの活動支援と育成を行い、子どもの読書活動の推進をめざします。

【具体的な取り組み】

取り組み事業	内 容	現状 R6年度	目標	関係機関
おはなし わーど	<ul style="list-style-type: none"> ○おはなし会 心豊かな子どもを育む良い絵本との出会いの場を提供 ○映画の日 映像から活字の世界に興味を持ってもらう場を提供 	実施	継続	保育園・ 認定こども園 小学校 図書館
図書館講座・ 図書館出張講座	<ul style="list-style-type: none"> ○読書推進および 図書館ボランティアの育成 ○読み聞かせ講座 ○親子読書講座等 	実施	継続	読み聞かせ サークル 保育園・ 認定こども園 小・中学校 図書館



ボランティアサークルによる「クリスマスおはなし会」

(4) 学校等における子どもの読書活動の推進

① 保育園・認定こども園等における取り組み

保育園・認定こども園、子どもセンター等では子どもが一緒に遊び、保育の専門家はその遊びを指導することで、子どもの健やかな成長と発達が促されます。また、感受性の強いこの時期に、たくさんの本と出会うことで、子どもは豊かな心を育んでいきます。

子どもが読書好きになるための土台作りとして、保育園・認定こども園等での積極的な読み聞かせやそのための読書環境の整備、情報発信に取り組んでいきます。また、保育園・認定こども園で所蔵している本について園児が自ら選んだ本を貸し出し、家庭での読書活動の推進にも繋げていきます。

保育園・認定こども園等では整備しにくい大型絵本や紙芝居等について図書館の移動図書館や団体貸出を活用し読書活動の充実を図ります。

【具体的な取り組み】

取り組み事業	内 容	現状 R6 年度	目 標	関係機関
読書感想画展	絵本を読んでその世界を自分で描き、表現することで絵本へのさらなる関心を育む。完成した絵は図書館に展示	実施	継続	保育園・ 認定こども園 図書館
幼児共育 ふれあい広場 (再掲)	親子による読書ふれあい体験活動	実施	継続	図書館 保育園・ 認定こども園
団体貸出 (再掲)	保育園・認定こども園、子どもセンター等に団体貸出を行い、図書館コーナーを新設	実施	継続	図書館 保育園・ 認定こども園
移動図書館 (再掲)	保育園・認定こども園での移動図書館と、読み聞かせを同時に開催	未実施	実施	保育園・ 認定こども園 子どもセンター 図書館

② 小・中・高等学校における読書活動の推進

学校教育法においては「読書に親しませ、生活に必要な国語を正しく理解し、使用する基礎的な能力を養うこと」が、その目標として掲げられています。また、学習指導要領においても「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童（生徒）の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること」に配慮すべきであると述べられています。

町内の小・中学校、高等学校では、授業前に全校一斉の朝読書を定期的に行っています。この朝読書は、読書習慣を身に付けるとともに、複眼思考や豊かな心を育むことになり、今後も継続していきます。

1冊の本との出会いが子どもの人生を大きく変えたり、支えになったりすることがあります。また、移動図書館や団体貸出で、子どもが生涯にわたって読書に親しむような人格形成の基礎をつくるために、地域、学校等、図書館が連携しながら支援し、この大切な時期が本との思い出で満たされるような仕組みづくりを行います。

【具体的な取り組み】

取り組み事業	内 容	現状 R6 年度	目 標	関係機関
朝読書	始業時間前に一定時間本を読み、読書習慣を身に付ける。	実施	継続	小・中学校 高等学校
ボランティアによる読み聞かせ活動	ボランティア団体が、定期的に学校を訪問し、絵本の読み聞かせを行う。	実施	継続	小学校 ボランティア
団体貸出	学校からの要望により選書を行い、貸出を行う。	実施	継続	小・中学校 高等学校 図書館
移動図書館 (再掲)	学校での移動図書館と、読み聞かせを同時に開催	未実施	実施	小・中学校 高等学校 図書館
レファレンス	疑問などの課題を解決するために、図書館の本を使って調べ学習を行う。	実施	継続	小・中学校 高等学校 図書館

2. 子どもが読書に親しむ機会の提供と施設、設備の整備・充実

【現状と課題】

子どもが読書に親しむためには、子ども自身が読書の楽しさを味わうことができる機会をつくるのが大切です。図書館においては、令和元年度に子どもたちの要望に応える形で学び合いスペースやイートインコーナーの設置を行うなど、より利用しやすい図書館にするために整備を行ってきました。子どもが生活のさまざまな場面で、本を読みたいと思った時に、いつでも本を手に取り、読むことができる環境を整えるとともに、大人が意図的に子どもを本の世界にいざなう環境を充実させていくことが大切です。

このような観点から、町立図書館や学校図書館における資料の充実を図り、学校図書館における蔵書データ貸出システム等のシステム統合など、施設・設備その他諸条件の整備・充実を図ることが必要です。

(1) 町立図書館における環境等の整備・充実

子どもたちが来館したい魅力ある図書館、乳幼児も利用しやすい図書館となるよう、施設・設備の充実をめざします。また、近年急速に進んだデジタル社会や多様な子どもたちに対応できる電子書籍やアクセシブルな書籍の導入を検討していきます。

【具体的な取り組み】

取り組み事業	現状 R6年度	目標
学び合いスペースの開設	実施	継続
ロビー飲食スペースの開設	実施	継続
Wi-Fi環境の整備	実施	継続
キッズ・ルームの整備	実施	継続
多目的トイレへのベビーチェアの設置	実施	継続
読書通帳の導入	未実施	実施
移動図書館車の配置	未実施	完了
書籍消毒機の設置	実施	継続
テーマ展示、季節の行事に合わせた飾り付け	実施	継続
電子書籍やアクセシブルな書籍の導入の検討	未実施	実施

(2) 学校図書館の整備・充実

① 学校図書館等の図書資料等の整備・充実

学校図書館は、児童生徒の読書活動だけでなく、読書指導の場である「読書センター」、学習活動を支援し授業の内容を深める「学習センター」及び情報収集・活用能力等を育成する「情報センター」としての役割を担っており、その機能が最大限に発揮されるよう整備を図ることが求められます。そのために、総合的な学習に関する図書資料の充実を図り、学習への利活用を推進します。

【具体的な取り組み】

取り組み事業	現状 R6年度	目標
図書整理・蔵書点検	実施	継続
子ども読書活動推進計画の策定	実施	継続

② 町立図書館と学校図書館の連携

図書館では、各学校図書館との連携促進を図りながら、子どもから大人まで、誰もが生涯にわたって読書を楽しむことができるよう努めていきます。

司書教諭や図書主任、学校司書と連携し、学校図書館の利活用を含めた取り組みを検討します。図書館による図書主任会の開催を継続し、相互交流と情報の共有化を図ることで、更なる読書活動の推進をめざします。

【具体的な取り組み】

取り組み事業	現状 R6年度	目標
図書館による図書主任会	実施	継続
図書館団体貸出	実施	拡充
図書館移動図書館	未実施	実施

3. 子どもの読書活動に関する理解の普及

【現状と課題】

子どもの読書活動について関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるための「子ども読書の日（4月23日）」や、文字・活字文化についての関心と理解を深めるための「文字・活字文化の日（10月27日）」の記念日が制定されております。記念日の周知だけでは、認識も低いため、記念日に合わせた企画等を立案し読書活動を推進することが必要です。

図書館だよりやホームページ等で、本の紹介や図書館等での事業の紹介を行い、保育園・学校等で定期的に発行している園だよりや学校図書館だよりにおいて、読書活動の意義と大切さについて啓蒙・周知を行うことが必要です。

（1）子どもの主体的な活動読書活動を推進する社会的な機運の醸成

読書に関連する記念日と合わせたイベントを開催し、地域社会全体で子どもの読書活動を推進する意識を高めていきます。また、家庭、地域のそれぞれで子どもに関わる大人が、読書活動の意義と重要性を理解するために、啓発と周知を行っていきます。

【具体的な取り組み】

取り組み事業	現状 R6年度	目標
保育園・認定こども園だより、学校だより、 学校図書館だよりでの啓発	実施	継続
学校PTAとの連携事業による啓発	実施	継続
図書館だより、ホームページ等での啓発	実施	拡充

❖ 参考資料

※ 令和6年度 遊佐町 読書に関するアンケート